VIEWPOINT

音楽

伊藤祐二（作曲家）
ユージ 斧に気をつけろ

今回は、音楽に関する本を幾つかご紹介したいと思います。

クラシック名曲「酷評」事典（上・下）

ニコラス・スロニムスキー編、藤村奈緒美訳　ヤマハミュージックエンタテインメント

原題はLexicon of Music Invective. 巻末に「罵倒語索引」なるものが付いており、音楽分野における、酷評・罵倒の語彙集の事典という意味合いか。

登場するのは、アルファベット順に、バルトーク、ベートーヴェンから始まり、ワーグナー、ヴェーベルンに終わる、43名の作曲家達。彼らの様々な作品に対する、評論家による批評、新聞の投稿等、ただし酷評、罵倒のみを収集。例えばベートーヴェンの〝フィデリオ〟「これほど支離滅裂でけたたましく混沌としていて耳をつんざくような音楽が……」等々。

巻末には出典が網羅され、罵倒語索引が、例えば「うめき声／ベルク、リスト、シェーンベルク、シュトラウス、ワーグナー」のように。作曲家の新作を理解できなかったり、単に嫌いだった人々の反応を、その、創意工夫に富んだ酷評の修辞と共に堪能できる。現代に生きる作曲家の私としては、非常に楽しい本である。

音楽のことば　第2、3、7巻

サム・モーガンスターン編、海老澤敏監修、近藤譲監訳、岩佐鉄男、白石美雪、長木誠司訳　哲学書房

B5判で美しい装丁のこちらを。全九巻とあるが、この3巻しか見当たらない。全巻は出版されなかったか。こちらは、作曲家が書いたものが集められている。2巻では、C.F.E. バッハ、グルック、モーツァルト、ベートーヴェン、ロッシーニ等、3巻では、ベルリオーズ、メンデルスゾーン、ショパン、シューマン等、7巻は、ヴォルフ、マーラー、ドビュッシー等。個々の作曲家の音楽、時代背景、を思いつつ、その言葉に触れ、美しいページを捲る時、いつの間にか、広大で深い森＝世界 のなかで呼吸をしている自分に気付く。

聴くことの革命　ベートーヴェン時代の耳は「交響曲」をどう聴いたか

マーク・エヴァン・ボンズ著　近藤譲、井上登喜子訳　アルテスパブリッシング

ベートーヴェンの時代に、音楽の聴き方が変わったという。どのように変わり、その結果、当時の人々は「交響曲」に何を聴いていたのか？ 二百年後の私たちは、ベートーヴェンの交響曲に何を聴いているのか？ 非常に興味深い。

音楽という謎　近藤譲　春秋社

近藤譲は優れた作曲家であり、すぐれた著述家である。雑誌連載のエッセイに加筆して上梓されたこの一冊をお勧めしたい。

音楽を巡る言葉が果てしなく渦巻く中、作曲家としてのリアリティに立脚し、読書し、考える近藤譲の洞察が、晦渋さを拒否した文体でテーマごとに語られ私たちを導く。

Give My Regards to Eighth Street

Morton Feldman　Exact Change

作曲家、モートンフェルドマンのエッセイ集。私の宝物本の一つ。sui generis.

＊今回、文学作品は除外した。本の入手については無視した。すぐに絶版、古書の法外な値段、を憂う。最後に、言葉と音楽は別のもの。念の為。